

令和元年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	観光の振興			担当課名	産業振興課		
(予算書コード)	07-01-03-05-01-12-01			担当係名	観光係		
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営				
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)						
根拠法令等の名称							

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	諏訪大社をはじめ、町に数多く存在する「宝＝地域資源」を最大限に活用し、地域内外の様々な人と地域をつなぐことで、交流の活性化と、来訪者の滞在時間の延長を図り、地域内の消費を促進し、観光消費額の増大と観光事業者に経済波及効果を目的に各種施策を展開するとともに、観光事業者に経済効果をもたらすほか、町の賑わいを創出する活性化効果も期待される。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	観光消費額 (1人あたりの消費単価)	諏訪大社周辺活性化事業 効果検証調査	円	目 標	1,900	2,115	2,400
				実 績	1,894	2,343	
達成率	99.7%	110.8%					

【投入されたコスト・業務量】

		平成30年度決算	令和元年度決算	令和2年度予算	
事業費	事業費 A	36,533 千円	43,199 千円	61,961 千円	
	うち 会計年度任用職員賃金	1.00 人 1,124 千円	1.00 人 1,765 千円	2.00 人 5,671 千円	
	正規職員人件費 B	1.00 人 6,694 千円	1.00 人 6,599 千円	1.60 人 10,495 千円	
事業費合計 C (A+B)		43,227 千円	49,798 千円	72,456 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	1,343 千円	1,095 千円	1,500 千円
		県の負担	1,391 千円	3,820 千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円
		その他	19 千円	2,931 千円	1,330 千円
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円	
一般財源 (町の負担)		40,474 千円	41,952 千円	69,626 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %	0 %	0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	C	協働を検討すべき 観光地域づくりには、行政と民間企業、地域住民、町観光振興局等の協働が必須である。地域資源の分析や観光動向の把握などを観光振興局が中心に行い、民間事業者とともに、より戦略的、効果的な観光施策を実施する必要がある。
公平性	B	検討の余地がある 直接的な受益者は観光客であり、経済的な受益は、観光関係事業者が享受しているが、まちあるきの推進などの事業効果により、町の賑わいの創出、地域活性化がみられ、それに伴い町内事業者や地域住民などが広く受益を享受している。
効率性	A	適切である 観光振興局及び民間事業者、地域おこし協力隊との協働・連携により、まちあるきマップや町内案内看板などの整備が進み、それに伴う観光客の町あるきが推進され、滞在時間の伸びや観光消費額の拡大がみられる。
達成度	C	目標値以下である 下諏訪町観光振興計画では、令和5年度までに観光客一人あたりの消費単価を3,000円まで増額させる目標で、今年度の消費単価は昨年比400円程度の増額となったが、各種施策を充実させて、さらなる消費喚起を図る必要がある。

総合評価	現状維持	人口減少や少子高齢化による地域経済の先細りが懸念され、観光産業の活性化のために、観光人口に加えて、交流人口の獲得が必須である。今後、他分野や住民にも協力いただき、来訪者を受け入れるための「観光地域づくり」を推進する。令和2年度より、観光振興推進事業・観光宣伝事業・観光情報提供システム事業を統合し効率的な事業推進を図る。
	拡 充	前年度事業を見直し、事業を総合的に推進することとしたため。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	拡 充	前年度事業を見直し、事業を総合的に推進することとしたため。

令和元年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	観光施設の管理				担当課名	産業振興課	
(予算書コード)	07-01-03-10-01				担当係名	観光係	
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営				
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)						
根拠法令等の名称							

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	下諏訪町に訪れた観光客に気持ちよく施設を利用していただき、リピーターの増加に繋げ、また、豊かな自然環境を保全するため、観光施設の整備、管理を行う。						
事業の活動成果  (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	観光客入り込み	観光客利用者統計	人	目 標	1,900,000	1,385,000	1,300,000
実 績				1,348,800	1,302,000		
達成率				71.0%	94.0%		

【投入されたコスト・業務量】

		平成30年度決算		令和元年度決算		令和2年度予算	
事業費	事業費 A	15,548 千円		86,752 千円		147,103 千円	
	うち 会計年度任用職員賃金	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	1.00 人	6,694 千円	1.00 人	6,599 千円	1.00 人	6,559 千円
事業費合計 C (A+B)		22,242 千円		93,351 千円		153,662 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		県の負担	3,372 千円	26,699 千円	22,500 千円		
		町の借入	千円	千円	96,900 千円		
		その他	2,192 千円	29,600 千円	15,102 千円		
		うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円		
一般財源 (町の負担)		16,678 千円		37,052 千円		19,160 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割 分担できないか	C 協働を検討 すべき	安全で気軽に楽しめる観光地として、公衆便所等の公共施設は町が行う必要があるが、豊かな自然や歴史的資源の価値を地域住民が共有し、協働による観光環境の整備も必要である。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	B 検討の余地 がある	観光施設の整備・管理は、観光客の満足度やリピーターの増加を目的としており、最終的には町の活性化にも繋がる。八島湿原の公衆便所の管理については八島高原を美しくする会等で検討し、受益者による一部負担を検討する。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、 事業が効率的に行われているか	B 検討の余地 がある	観光施設の管理は、業務委託により効率的に行われている。施設の修繕等の緊急を要するものについては随時対応しているが、老朽化が進んでいる施設については、計画的な改修が必要となる。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	B 目標値ど おりである	観光施設の整備による観光客の満足度やリピーターの増加を目標としており、人口減少、少子高齢化などの社会情勢への対応や、老朽化した施設の維持管理を効率的に行っている。

総合評価	現状維持	観光地において、トイレをはじめとした施設の快適性や使いやすさなどへの要望は高まっており、観光地のイメージを損なわないように、引き続き、受入環境の整備をしていく。老朽化した八島湿原の木道については、破損が激しく危険な状態であるため、計画的に整備をする計画である。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	拡 充	前年度事業を見直し、事業を総合的に推進することとしたため。

# 令和元年度事務事業評価シート

## 【基本事項】

事務事業名	しもすわ今昔館の管理運営			担当課名	産業振興課
(予算書コード)	07-01-03-14-01			担当係名	観光係
事業区分	単年度予算	運営方法	委託		
事業の開始・終了	年	月	～	年	月
根拠法令等の名称					

## 【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	平成30年度から「しもすわ今昔館おいでや」に名称を変更して、「時計工房儀象堂」と「星ヶ塔ミュージアム矢の根や」を一体とし、町の歴史や文化を紹介しながら、まち歩きを促す拠点としての機能を持たせるとともに、体験・体感を楽しめ、また訪日外国人旅行者にも対応した施設として、また地域に根ざした観光活性化の拠点施設を目指し、指定管理者(下諏訪町地域開発公社)とともに管理、運営を行う。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	観光客入り込み	営業報告	人	目標	15,000	15,000	10,000
				実績	11,616	8,841	
				達成率	77.4%	58.9%	

## 【投入されたコスト・業務量】

		平成30年度決算		令和元年度決算		令和2年度予算		
事業費	事業費 A	23,819 千円		8,651 千円		10,884 千円		
	うち 会計年度任用職員賃金	人	千円	人	千円	人	千円	
	正規職員人件費 B	0.50 人	3,347 千円	0.50 人	3,299 千円	0.50 人	3,280 千円	
事業費合計 C (A+B)		27,166 千円		11,950 千円		14,164 千円		
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	千円	
		県の負担	千円	千円	千円	千円	千円	
		町の借入	千円	千円	千円	千円	千円	
		その他	千円	千円	千円	千円	千円	千円
		うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		27,166 千円		11,950 千円		14,164 千円		
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %		

## 【事業の評価】

区分	評価	説明
<b>妥当性</b> 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	C	協働を検討すべき 下諏訪町地域開発公社が指定管理者として管理運営を実施しているが、稼ぐ観光地域づくりを推進するためにより民間的な視点を取り入れ、収入増、経費減に取り組む必要がある。
<b>公平性</b> 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A	適切である 直接的な受益者は観光客であるが、今昔館は町歩きの拠点としての機能も兼ね備え、観光客に対して周遊観光を促しており、町内の観光関係事業者においても受益者であるといえる。
<b>効率性</b> 予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A	適切である 最少人数により運営している。施設の維持管理等は業務委託により効率的に実施している。
<b>達成度</b> 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	C	目標値以下である 目標値は下回っているが、まちあるき拠点の案内所として機能しており、無料スペースへの来館者は増加傾向にある。今後はそういった来館者も時計作り体験などのターゲットとしていく必要がある。

<b>総合評価</b>	<b>現状維持</b>	まちあるき促進の機能は果たしており、町内周遊の拠点として重要な役割を担っている。収益のメインとなっている時計作り体験に関しても安定した集客があるが、今後は旅行商品の一部として販売するなど、さらなる集客に努める。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	<b>現状維持</b>	

令和元年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	八島ビジターセンターあざみ館の管理運営			担当課名	産業振興課
(予算書コード)	07-01-03-16-01			担当係名	観光係
事業区分	単年度予算	運営方法	委託		
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)				
根拠法令等の名称					

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	八島湿原でのトレッキングや、自然観察の拠点として、八島湿原の紹介、物品販売等により訪れる観光客へのおもてなしに努めるとともに、国の天然記念物に指定されている八島ヶ原湿原の貴重さを理解してもらい、自然環境保全の推進に寄与する。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	観光客入り込み	営業報告	人	目標	40,000	40,000	40,000
				実績	39,900	38,600	
達成率	99.8%	96.5%					

【投入されたコスト・業務量】

		平成30年度決算		令和元年度決算		令和2年度予算	
事業費	事業費 A	489 千円		879 千円		1,146 千円	
	うち 会計年度任用職員賃金	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.60 人	4,016 千円	0.60 人	3,959 千円	0.60 人	3,935 千円
事業費合計 C (A+B)		4,505 千円		4,838 千円		5,081 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	
		県の負担	千円	千円	千円	千円	
		町の借入	千円	千円	千円	千円	
		その他	千円	千円	千円	千円	
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円	千円		
一般財源 (町の負担)		4,505 千円		4,838 千円		5,081 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区分	評価	説明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	C 協働を検討すべき	平成18年度から指定管理者(観光協会)による管理運営を実施、今後、公園管理団体など霧ヶ峰全体を見据え、採算性を高めることを目的とした管理運営が必要である。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A 適切である	観光客が主な受益者となる。平成13年度から入館料無料とし、誰でも自由に館内を見学できるようにしている。インタプリターを活用した自然観察は、霧ヶ峰自然教室により、利用者から料金を徴収し実施している。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	B 検討の余地がある	ビジターセンターの運営においては、下諏訪観光協会が指定管理者として実施しているが、収支は厳しい状況となっている。利益を得る方策として、物販の充実を図るための研究を行っている。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	B 目標値どおりである	山岳観光地は、天候が大きく影響してしまう。入館者数の増減があるもののほぼ目標値に達している。

総合評価	現状維持	エコツーリズムやグリーンツーリズムが盛んになってきており、高原に訪れる人は、増加傾向にある。自然観察のインタプリテーション事業は好評をいただいていたが、八島ビジターセンターあざみ館で実施していたガイドウォークを、民間事業者の「霧ヶ峰自然教室」が運営することになり、収益を増加させるための商品造成と物販による売上を伸ばす検討が必要である。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和元年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	おんばしら館の管理事業			担当課名	産業振興課
(予算書コード)	07-01-03-18-01			担当係名	観光係
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営		
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)				
根拠法令等の名称					

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	観光客はもとより、地域を含む多くの人々に、御柱を柱とする歴史や文化に親しむ機会を提供し、下諏訪文化の創造に貢献する施設として位置づけ、下諏訪町全体が活性化するための拠点としての機能も目指す。また、知名度の高い御柱祭を中心に、祭り文化に通年触れることができる施設として来訪者の増加を図る。						
事業の活動成果  (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	観光客入り込み	営業報告	人	目 標	18,000	18,000	15,000
実 績				16,932	15,495		
達成率				94.1%	86.1%		

【投入されたコスト・業務量】

		平成30年度決算		令和元年度決算		令和2年度予算	
事業費	事業費 A	9,768 千円		9,233 千円		11,527 千円	
	うち 会計年度任用職員賃金	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.60 人	4,016 千円	0.60 人	3,959 千円	0.60 人	3,935 千円
事業費合計 C (A+B)		13,784 千円		13,192 千円		15,462 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円	千円	
		町の借入	千円	千円	千円	千円	
		その他	6,111 千円	5,494 千円	6,810 千円	6,810 千円	
		うち 使用料・手数料 D	6,111 千円	5,494 千円	6,810 千円	6,810 千円	
一般財源 (町の負担)		7,673 千円	7,698 千円	8,652 千円	8,652 千円		
受益者負担率 (D/C)		44.334 %		41.646 %		44.043 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割 分担できないか	C 協働を検討 すべき	平成28年度に開館し、5年間は町主導で運営してきたが、いずれは民間の運営が望まれる。おんばしらを契機とした各種体験イベントなどでは木遣りや長持ち団体など、関連団体の協力を得ながら実施している。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A 適切である	直接的な受益者は観光客であるが、諏訪大社下社春宮を中心とした周遊観光や、地域住民が集える広場としての位置づけを持つため、観光関係事業者や住民も受益者である。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A 適切である	施設管理は業務委託を実施し効率的に行われている。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	C 目標値以下 である	平成30年度、令和元年度ともに目標を下回っている。徒歩圏内に春宮や万治の石仏等があるため同時に本館への周遊も促せるような企画を考案し、誘客に努める必要がある。

総合評価	現状維持	令和4年に控えている御柱祭を契機に、御柱祭の歴史・文化を体験できる唯一の施設としての魅力を打ち出し、春宮→万治の石仏→おんばしら館よいさの導線が下諏訪町の代表的な周遊ルートとなるよう努めていく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和元年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	観光振興推進、観光宣伝、情報発信事業			担当課名	産業振興課
(予算書コード)	07-01-03-22-01・26-01・28-01			担当係名	観光係
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営		
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)				
根拠法令等の名称					

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	訪れていただいた観光客に、更なる滞在時間の延長を図るための各種施策を実施する。 また、当町を訪れたいと思わせる各種情報を的確に発信することで来訪者の増加を図る。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	観光客入り込み	観光客利用者統計	人	目 標	1,900,000	1,385,000	1,300,000
				実 績	1,348,800	1,302,000	
達成率	71.0%	94.0%					

【投入されたコスト・業務量】

		平成30年度決算	令和元年度決算	令和2年度予算	
事業費	事業費 A	28,036 千円	27,651 千円	千円	
	うち 会計年度任用職員賃金	人 千円	人 千円	人 千円	
	正規職員人件費 B	0.60 人 4,016 千円	0.60 人 3,959 千円	人 0 千円	
事業費合計 C (A+B)		32,052 千円	31,610 千円	0 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円	
一般財源 (町の負担)		32,052 千円	31,610 千円	0 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %	0 %	#DIV/0! %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	C 協働を検討すべき	観光客の誘客はその具体的手法において行政事業としては不向きな部分もあること、更に専門知識も必要になることから、観光振興局及び民間事業者との協働・連携により、地域住民や関係団体等とともに効率的、効果的な事業展開を図っていく必要がある。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	B 検討の余地がある	受益を受ける事業者、団体等から一部費用負担は求めているが検討する余地がある。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A 適切である	観光協会や観光振興局が中心となり、観光宣伝、情報発信に取り組んでいる。また、広域的なPRも諏訪地方観光連盟のツールを活用して取り組んでいる。観光振興では、地域おこし協力隊と観光振興局が連携して、さらなるまちあるきの推進に取り組んでいる。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	B 目標値どおりである	人口減少、少子高齢化などの状況を考えると、大幅な観光客の増加は望めないが、まちあるきを楽しんでいる観光客も増えているため、滞在時間の向上と消費額の増加を図っている。

総合評価	手法改善	観光振興の推進にあたっては、行政だけでは限界があり、受益者となる民間事業者等との連携が必要となり、「観光地域づくり」を推進することが必要である。
	手法改善の内容	令和2年度は、観光の振興に事業を統合することにより、事務の効率化や省力化を図り、滞在化の促進と消費額の増加を目指す。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	事業をより推進しやすくするため既存事業へ統合したため。